

防衛問題セミナーに学ぶ 東日本大震災の教訓



講演の後に行われた質疑応答のようす。

東日本大震災の教訓を踏まえ、今後の防災対応について考える防衛問題セミナーが、7月29日、文化会館で開催され、約530人の方が参加しました。

セミナーでは、防衛大臣政務官・広田一さんと第14旅団長陸将補・井上武さんが、東日本大震災における国の災害対応や被災地における捜索・救助活動について講演したほか、山崎防災監が、本市の防災対応の取組などについて説明しました。

質疑応答では、「想定できる四国のリスクはどのようなものがあるか」という問いに対し、被災地で捜索・救助活動の陣頭指揮を執った井上旅団長は、東日本大震災の教訓を踏まえ、「本土と陸つながらでない四国で救助・輸送支援をいかに行うかが今後の課題です。」と、南海地震に備えた防災対応の再点検と重要性を訴えました。

過去に二度の津波を経験している坂東嘉一朗さん(椿町)は、「今回の避難率の低さからもわかるように、住民の防災意識はまだ低いと感じています。いつ発生するかわからない南海地震に備え、具体的な避難行動などを勉強する機会を設けるなど、一日も早い対応が必要です。」と話していました。

🌊 おかげさまで10周年

四国最東端の温泉として知られる船瀬温泉保養センターが、7月26日に10周年を迎えたことから、記念イベントが7月24日に行われ、入浴者は入浴料が無料になるとともに、野外ライブやとれ市



などを楽しむ家族連れでにぎわいました。

「家族で温泉を訪れた多田吉穂さん(長生町)は、「景観もよくいとお風呂でした。温泉までの道路環境が改善されて、レジャー施設や宿泊施設があると温泉の利用価値も上がると思います。」と、初めて訪れた感想を話していました。

入り口付近に設けられた特設ステージでは、地元バンドのキング&ヤングによる野外ライブが行われ、「全国屈指のサーフポイント蒲生田の海と、素晴らしいロケーションが楽しめるこの温泉をもっと広めたい」と、気持ちを込めた歌が披露されました。来場者は、心地よい潮風に吹かれながら、いつもとは違った温泉の雰囲気を楽しんでいました。

8月1日から試行実施 可燃ごみの袋「透明化」

本市では、平成18年4月から可燃ごみの袋を「有色」から「透明または半透明」に変更して、分別排出によるごみの減量化を推進してきました。

しかしながら、「半透明」の袋の種類によつては中身が識別できないものがあり、分別確認や収集時の安全確保等に支障をきたしています。

このため、可燃ごみの袋についても、他の収集品目と同様に、「透明」のポリ袋を使用していただくこととしました。

さらなるごみの分別とごみ減量化・資源化にご協力ください。

【試行期間】

8月1日～平成24年3月31日

※試行期間中は、半透明のポリ袋で出された場合でも収集しますが、不透明なポリ袋等は収集していません。その場合、シールを貼ってその旨をお知らせしています。

【本格実施】

平成24年4月1日から

※半透明の袋は使用できません。

問い合わせは

環境管理課 (☎22-3794)・生活環境課 (☎22-0001)へ

竹串、魚の骨、つまようじ等、日常生活でありふれたものが、思わぬケガの原因に。

半透明ポリ袋

無色透明ポリ袋



東日本にエールを！ 阿南の夏まつり 2011

阿南から届ける“祈りの光”と“最高の笑顔”

阿南の夏を熱くする恒例の“阿南の夏まつり”が7月24日から3日間、富岡商店街周辺で開催された。
「東日本にエールを！阿南から元気な光のメッセージを贈ろう！」高さ20mの竹タワーに「願いのペットボトル」約4,000本に祈りの光が灯された。威勢のいい阿波踊り、エネルギッシュなダンス、魂のこもった歌が被災地に元気を贈る。特設ブースでは気仙沼物産展も行われ、みちのく東北の味も楽しんだ。あふれる笑顔、みなぎる力。被災地復興への思いを胸に繰り広げられた真夏の祭典は、3日間で約92,000人の人出でにぎわった。



D・B・Y (D・B・Y)
森 実咲さん (羽ノ浦町)



富岡小学校マーチングバンド



第7期光の天使
神木美幸さん (小松島市)

第8期光の天使
神野裕里菜さん (桑野町)



阿南寿連
橋本絵里香さん (羽ノ浦町)



ストラックアウトで見事
パーフェクトを達成した
鈴木稜真さん (今津小3年)



瀬戸内美八さん率いる「ダンススタジオ ひまわり」の皆さんによる華麗な舞



アロハサークルアイカネ阿



クレイジー・タカさん



気仙沼市
観光キャラクター
海の子
ホヤぼーや



団体部・優勝「徳島至誠館」
瀬戸内美八さん
元宝塚歌劇団
星組男役
トップスター
おめでとうございます



よちんこい「チーム舞人」